

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年6月24日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2772201790
法人名	社会福祉法人 久栄会
事業所名	グループホームみのり苑
所在地	大阪市生野区巽中2丁目14番1号 (電話) 06-6756-7600
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 6月 12日

【情報提供票より】(平成 21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	12人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	約17,000円(但し、7~8月は3,000円加算)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成 21年 5月 1日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 92.1歳	最低 87歳	最高 103歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのり苑付設診療所、芥川病院、武田医院、河野歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域出身の代表者が地元で高齢者福祉に貢献するため設立した社会福祉法人の6名定員の少人数グループホームです。養護老人ホームを併設し、近隣でも特養やデイサービス、居宅介護などの介護サービス事業を行っています。「少人数・家庭的な環境を活かし、利用者一人ひとりの個性と主体性を大切に援助を目指す」「落ち着いたある雰囲気の中で過ごし、ご家族・地域との関係を継続していける援助を目指す」を方針として掲げ、利用者がのんびりと安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。利用者のはのんびり、ゆったりと安心して笑顔で暮らしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について改善が進み、現在対象者はいませんが、重度化や終末期について方針を固め、利用者や家族、関係者との話し合いが進んでいます。また玄関扉を昼間の時間帯に開錠するようになりました。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は、職員にも意見を記入してもらうため自己評価票を白紙で渡し、主任(計画作成担当者)が意見をとりまとめて完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目③	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地区社会福祉協議会会長、ネットワーク委員会推進委員、家族の参加のもと、年2回開催しています。会議では外部評価の結果やホームの運営状況、利用者の生活ぶり、行事予定や実績等を報告するとともに、地域との交流の深め方について話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。家族とは良好な関係を築いています。家族とは面会時だけでなく、介護計画作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置し、家族の意見が表せる機会を設けています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者が地域出身の人であり、地域との関わりは深くなっています。利用者は地域の会館で行われるレクリエーションの会や食事会、喫茶の会に参加しています。また地域の運動会や盆踊りにも参加し、地元の人々と交流を図っています。地域の人が法人の開催する納涼祭、歌体操や囲碁等のレクリエーションにもボランティアとして訪れ、利用者と一緒に楽しんでいます。保育園児との交流もあります。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「少人数・家庭的な環境を活かし、利用者一人ひとりの個性と主体性を大切にした援助を目指す」「落ち着いたある雰囲気の中で過ごし、ご家族・地域との関係を継続していける援助を目指す」を方針として掲げ、利用者がのんびりと安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例のグループホーム会議や毎日の業務を通じて方針を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>運営者はホーム周辺地域の出身であり、地域との関わりは深くなっています。利用者は地域の会館で行われるレクリエーションの会や食事会、喫茶の会に参加しています。また地域の運動会や盆踊りにも参加し、地元の人々と交流を図っています。法人は開催する納涼祭、歌体操や囲碁等のレクリエーションに地域住民がボランティアとして訪れ、利用者と一緒に楽しんでいます。また保育園児との交流もあります。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価で示された事項について改善が進み、現在対象者はいませんが、重度化や終末期について方針を固め、利用者や家族、関係者との話し合いが進んでいます。また玄関扉を昼間の時間帯に開錠するようになりました。自己評価は、職員にも意見を記入してもらうため自己評価票を白紙で渡し、主任(計画作成担当者)が意見をとりまとめて完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地区社会福祉協議会会長、ネットワーク委員会推進委員、家族の参加のもとで、年2回開催しています。会議では外部評価結果やホームの運営状況、利用者の生活ぶり、行事予定や実績等を報告するとともに、地域との交流の深め方について話し合っています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生野区の担当職員とは常に相談や情報交換を行い、区の事業者連絡会にも参加してサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。金銭管理については定期的に家族の確認を得ています。家族とは良好な関係を築いています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、介護計画作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置し、家族の意見が表せる機会を設けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はほとんどなく、勤続3年以上の職員が多くなっており、定員6名の少人数グループホームということもあって、利用者との馴染みの関係が深くなっています。利用者との職員の会話だけでなく、利用者同士の会話も弾み、和気あいあいとした雰囲気があります。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成教育に熱心で、職員は大阪市のグループホームネットワーク研修や各種の団体の外部研修へ参加するとともに、定期的な法人内研修にも参加し、レベルアップを図っています。職員の資格取得も推進しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟グループホーム分科会や大阪市グループホームネットワークを通じて研修や交流に参加し、サービスの質の向上に向けた取り組みをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用前に施設や家庭を訪問することがあります。また本人や家族がホームに来訪するなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。利用者とは毎日の家事や園芸を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの情報シートやケアチェック表を使って、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント情報や利用者の現在の暮らしぶり、心身の状況を把握するとともに、医師や介護職員の意見、家族の意向を聞きながら、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。ケア記録や定例のケース検討結果等をケアチェック表でモニタリングを行っています。サービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の付設診療所の医師とかかりつけ医との連携により必要な医療を受けています。ホームでは必要の都度通院介助も行っています。囲碁やレクリエーションで地域ボランティアの支援を受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常、従来のかかりつけ医師の医療を受けています。付設診療所の医師の回診もあり、双方の医師の連携が保たれています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる利用者はいませんが、重度化した場合の方向性については、利用者や家族へ説明を行っています。利用者が重度化した場合はできるだけホームでの生活が続けられるよう、状況変化とともに、利用者や家族、医師、職員間で話し合いを行い、方針を共有していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急がしたりする言葉はなく、柔軟な対応をしています。入浴や食事の時間等について柔軟に対応し、昼食に1時間以上かけても職員から急かされることがない等、利用者のはのんびり、マイペースで暮らしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯と味噌汁はホームで作り、おかずは併設養護老人ホームから調理済みの食材を運んでいます。食事準備、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で参加し楽しんでます。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や、食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく、なごやかな雰囲気を作っています。月に1回の調理の日には、カレー作りやおやつ作りをして楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2回、大きな浴槽でゆっくり寛いだ入浴をしています。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で、家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。また道路の向こうにある同法人特養での歌体操、地域の会館でのレクリエーションや喫茶の会に通う利用者の支援もしています。ボランティアの人と囲碁を楽しむ利用者もいます。新聞を丹念に読む利用者、新聞のチラシを見ながら職員と楽しそうに品定めしている利用者等、利用者の楽しみごとを支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には周辺の散歩や買物に出かけています。初詣や季節の花見、紅葉狩りにも出かけています。地域の会館行事で、地域の人と共に旅行へ出かける利用者の支援もしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価で示された施錠については、職員の見守りにより、玄関扉を日中午後の時間帯は鍵をかけないようにしました。午前についても実施するべく検討しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルを作成し、災害対策として年2回、消防署指導の避難訓練を実施しています。しかし、非常・災害時のための食料品と水の備蓄は実施していません。	○	非常・災害時に備えて2～3日分の食料品や水を備蓄することが求められます。また備蓄については「非常用備蓄マニュアル」や「備蓄品リスト」等を作成し、備蓄管理をされてはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し、記録しています。栄養バランスについては、併設養護老人ホームの管理栄養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には季節の花やトマト等の野菜が植えられ、ベンチには利用者が腰を掛け、新聞を読む姿もあり、訪ねやすい雰囲気になっています。玄関扉から見渡せるリビング兼ダイニングルームは明るく、広く、開放的でゆったりと寛げるソファもあります。壁には毎月取り替える季節の花や、風物を表現した手芸作りのカレンダー、交流している保育園児の花びらに手形をつけた押し絵の作品が貼られています。胡蝶蘭、観葉植物も飾られていて、落ち着いた生活感のある家庭的な共用空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームが用意しているベッド、タンス以外に、利用者は洋服掛け、衣装ケース、籐の椅子、テレビ、家族の写真、書籍、時計、手作り作品、花や観葉植物等使い慣れた懐かしく馴染みのある物を持ち込み、壁には行事写真も貼って、家族の気配りも感じられ、安心してゆったりとした生活が送れる空間になっています。		